

フジサンケイ広報フォーラム 2024年4月・月例会メモ(2024/4/22)

フジサンケイ広報フォーラム 4月・月例会は、フジテレビジョン解説委員の橋本寿史氏を講師にお招きし、皇室取材と宮内庁の新たな広報体制について説明いただきました。



橋本寿史（はしもと・ひさし）氏 フジテレビジョン報道局解説委員
1983年フジテレビジョン入社。情報番組などのディレクターなどを経て報道局に異動。報道局では、都庁や宮内庁の担当記者のほか昼刊、夕刊、土日ニュースのプロデューサーなどを務める。宮内庁は98年から2002年、社会デスクを経て、11年から現在まで担当。愛子さまのご誕生、香淳皇后の逝去、上皇さまの心臓バイパス手術などを取材。

天皇ご一家がお住まいなのは皇居だが、生活をされているのは半蔵門に近い御所だ。ここには、我々マスコミも立ち入ることは許されていない。皇室取材を担当する記者陣(宮内記者会加盟15社)は、東京駅寄りの坂下門近くにある宮内庁内に常駐している。なお、上皇、秋篠宮家、三笠宮家、高円宮家の皇室の方々も赤坂御用地内にお住まいになっている。

取材する側からすると、宮内庁は中央官庁の中でも一番やりにくい役所だと言っている。慣例にない記者会見などは一切拒絶し、宮内庁が撮影した皇室ご一家の映像には、全く肉声が入っていないものが提供されるほどだ。そんなことから、記者会からの取材要求に際して、かなりもめるケースも少なくない。

その一方で、宮内庁は皇室の活動を幅広く国民に知ってもらいたいと考えている。ただし、発信する情報の中身は慎重に選定されるため、発信のタイミングはかなり遅れている。それでも、この4月からインスタグラムを開設し、動画も見られることに記者陣は驚かされた。フォロワーも3週間で100万人を超え、国民の関心が高いことを窺わせた。

宮内庁が情報発信に慎重になるのは、皇室への心無いバッシングが続いたことにも原因がある。1990年頃は美智子上皇后陛下の新しいやり方に批判が集まったり、2000年代は雅子皇后陛下にお子生まれられないことなどへの中傷記事が増えたりした。最近では秋篠宮家に対するネガティブ報道が続いている。

こうしたことから、23年4月に宮内庁報道室内にあった広報を室として独立させ、その室長に警察庁キャリア官僚で、サイバーセキュリティの担当責任者だった藤原麻衣子氏を任命した。インスタグラム開設も同氏が就任し、新たに始めたことだ。今後の課題は、タイムリーな情報発信とその中身の充実だと思われる。

※当日は講演後の質疑応答の中で、知られざる皇室ご一家の質素な生活ぶりも解説いただきました。